

2016年（平成28年）

3月4日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

2/18~2/24のNYMEX・WTIIは、需給緩和期待からやや値上がりし、29~31ドルで推移した。

2月25日は、ベネズエラ石油相が、3月半ばにサウジアラビア、ロシア、カタール、ベネズエラの4か国で、原油市場の安定化に向けた会合を開くと発言したことから続伸した。4月限の終値は、前日比0.92ドル高の33.07ドルとなった。

週末26日は、前日のベネズエラ石油相の発言等で高めに推移したが、午後に入ると利益確定の動きが強まり、3日振りに反落した。4月限は、前日比0.29ドル安の32.78ドルで終了した。

週明け29日は、中国中央銀行が4か月振りの金融緩和策を発表したこと、米国の稼働リグ数が、2009年12月以来の水準に落ち込んだことなどから反発した。サウジアラビア、ロシア、ベネズエラ、カタールの4か国による会合への期待もこれを後押しした。4月限の終値は、前日比0.97ドル高の33.75ドルで終了した。

1日は、ロシアのノバク・エネルギー相が4か国の原油生産凍結に対し15か国以上からの支持が来ていると発言したことから値上がりし、2か月振りの高値となった。4月限の終値は、前日比0.65ドル高の34.40ドルで終了した。

2日は、EIA(米エネルギー情報局)の石油統計で、原油在庫が大幅に増加し、いったん値下がりしたものの、3月中旬に予定される4か国の会合に対する期待から値上がりに転じた。4月限の終値は、前日比0.26ドル高の34.66ドルとなった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(4月渡し)は、前週も30ドルを挟む、28~31ドルで推移した。25日

は30.00ドル、26日は30.60ドル、週明け29日は30.50ドル、1日は欧米市場の値上がりを受け32.30ドル、2日は32.20ドル。

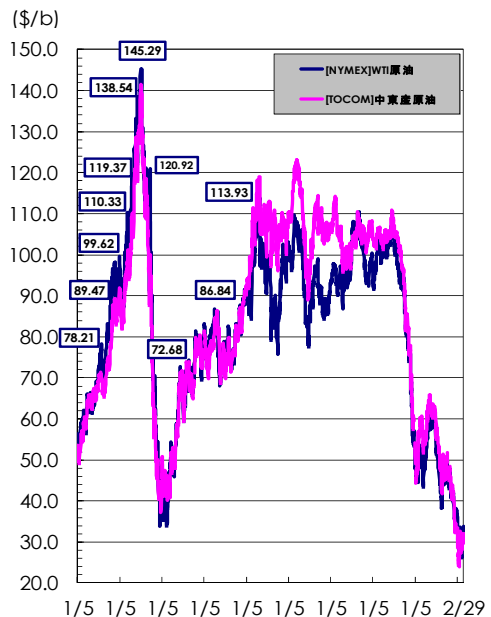
為替は、前週は再び円高が進み111~113円台で推移した。25日は112.17円、26日は113.02円、週明け29日は113.62円、1日は112.49円、2日は113.96円で円安気味に推移した。

財務省が26日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、2月上旬の原油輸入平均CIF価格は、23,378円/klとなり、前旬を3,265円下回った。ドル建てでは31.5ドルで前旬比4.37ドル安。為替レートは1ドル/117.99円。

主要元売会社の3月第1週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、横ばいから1.0円の値上がりだった。原油の値上がりを円高が一部相殺しコストはほぼ横ばいだった。

そのような中で、2月29日時点の小売価格は、ガソリンが0.5円値下がりの112.5円、軽油も0.5円値下がりの97.7円、灯油は0.1円値下がりの61.3円となった。ガソリン・軽油・灯油共に2週連続の値下がり。この週の原油コスト、元売りの卸価格は共に値上がりだったが、前週の卸売価格値下がりの影響を受けて41都府県で値下がりした。

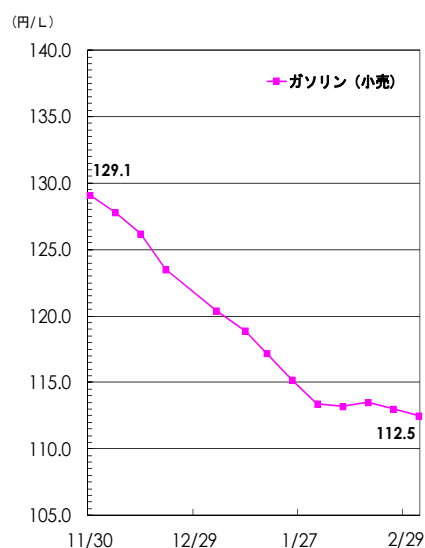
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	2/21 ~ 2/27	3,766 ▼ -126	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	86.4 ▼ -2.9	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	2/27	13,472 ▼ -840	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	2/29	31.67 ▲ 1.52	▼ -29.0
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	2/29	33.75 ▲ 2.27	▼ -15.8
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	2月上旬	31.50 ▼ -4.37	▼ -18.04
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	23,378 ▼ -3,265	▼ -13,400
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	117.99 ▲ 0.09	▲ 0.05
	外国為替TTSレート (¥/\$)	2/29	114.62 ▼ -0.77	▲ 6.25



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/21 ~ 2/27	1,059 ▼ -32	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,026 ▲ 157	▲ -	
	輸出	"	107 ▼ -10	▼ -	
	在庫	2/27	1,694 ▼ -75	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/23 ~ 2/29	31.5 ▲ 0.6	▼ -26.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/23 ~ 2/29	35.8 ▲ 3.3	▼ -24.2
		(TOCOM/中部)	2/29	35.0 ▲ 2.0	▼ -26.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/29	112.5 ▼ -0.5	▼ -26.8	

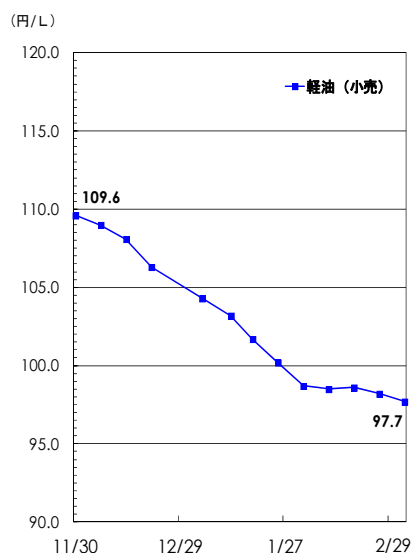
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

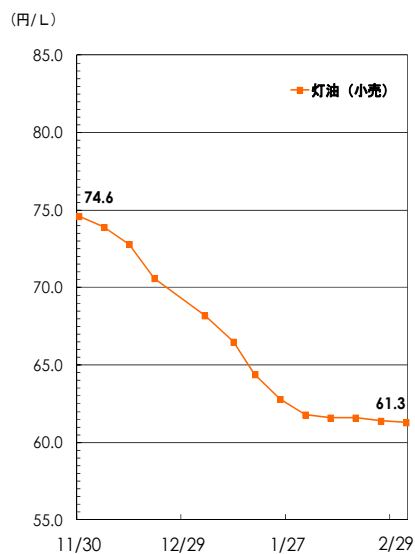
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/21 ~ 2/27	867 ▲ 78	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	736 ▲ 113	▲ -	
	輸出	"	305 ▲ 141	▼ -	
	在庫	2/27	1,534 ▼ -174	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/23 ~ 2/29	32.1 ▼ -0.1	▼ -19.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/23 ~ 2/29	36.5 ▼ -0.9	▼ -19.8
		(TOCOM/中部)	2/29	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/29	97.7 ▼ -0.5	▼ -21.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/21 ~ 2/27	389 ▼ -148	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	595 ▲ 31	▲ -	
	輸出	"	0 → 0	▼ -	
	在庫	2/27	1,303 ▼ -206	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/23 ~ 2/29	36.1 ▲ 1.2	▼ -20.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/23 ~ 2/29	32.3 → 0.0	▼ -24.8
		(TOCOM/中部)	2/29	31.0 ▼ -2.4	▼ -26.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/29	61.3 ▼ -0.1	▼ -22.8	



■ 関連情報

1 海外/原油

2日のNYMEX市場のWTI原油は、3月中旬に開催されるという4産油国の会合への期待から続伸した。

EIAが発表した週間石油統計は、原油在庫が事前予想を大幅に上回る1,040万バレル増となり、一時は33.55ドルまで値下がりした。しかし前日、15カ国以上が支持を表明しているとされた4産油国(サウジアラビア、ロシア、ベネズエラ、カタール)による原油安対策の会合に対する期待が大きく、またベネズエラ石油相が、原油生産凍結以上の行動も議論される可能性があると言ったことから値上がりに転じた。

4月限の終値は、前日比0.26ドル高の1バレル34.66ドル、5月限の終値は、前日比0.15ドル高の1バレル36.30ドルだった。

EIAによると、2月29日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比0.53セント値上がりの1ガロン1.783ドル(53.9円/ℓ)となった。ディーゼルは0.06セント値上がりの1.989ドル(60.2円/ℓ)。ガソリン、ディーゼル共に2週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2月21日～27日に休止したトッパー能力は、32.5万バレル/日と先週と6.3万バレル/日の増加。(全処理能力は391.7万バレル/日)。

原油処理量は376.6万kl、前週に比べ12.6万kl減。前年に対しては、22.8万klの減少。トッパー稼働率は86.4と前週に対しては2.9ポイントの減少、前年に対しては4.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油で増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.0%減、ジェット/32.5%増、灯油/27.6%減、軽油/9.9%増、A重油/4.3%減、C重油/6.6%減。今週のC重油の輸入は3.1万kl(前週比3.1万kl増)。軽油の輸出は30.5万kl(前週比14.2万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではすべての油種で増加した。前年比ではC重油のみが減少しその他の油種で増加した。天候が安定続きであったこと、原油の下落を受けて再び価格の下落が見られたことによる格安感等からガソリンで102.6万kl(対前週18.1%増)と3週振りの100万kl超え、5週振りの前年超えとなった。

ジェット18.2万kl(対前週56.9%増)、灯油59.5万kl(対前週5.5%増)、軽油73.6万kl(対前週18.1%増)、A重油33.2万kl(対前週17.3%増)、C重油34.2万kl

(対前週6.5%増)。

(単位:千KL)

	今週 (2/21 ~ 2/27)	前週 (2/14 ~ 2/20)	前週比
ガソリン	1,026	869	▲ 157 (18%)
ジェット燃料	182	116	▲ 66 (57%)
灯油	595	564	▲ 31 (5%)
軽油	736	623	▲ 113 (18%)
A重油	332	283	▲ 49 (17%)
C重油	342	321	▲ 21 (7%)
合計	3,213	2,776	▲ 437 (16%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

2月27日時点の在庫はすべての油種で取り崩しとなった。また前年に対してはジェット、軽油が積み増し、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは169.4万kl、前週差7.5万kl減。前年に対し1.9万kl少ない。

灯油は130.3万kl、前週差20.6万kl減。前年に対しては30.2万kl少ない。

軽油は153.4万kl、前週差17.4万kl減。前年に対しては13.3万kl多い。

A重油は69.5万kl、前週差4.5万kl減。前年に対しては5.2万kl少ない。

C重油は194.7万kl、前週差9.8万kl減。前年に対しては5.4万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (2/27)	前週 (2/20)	前週比
ガソリン	1,694	1,769	▼ -75 (-4%)
ジェット燃料	830	903	▼ -73 (-8%)
灯油	1,303	1,509	▼ -206 (-14%)
軽油	1,534	1,708	▼ -174 (-10%)
A重油	695	740	▼ -45 (-6%)
C重油	1,947	2,045	▼ -98 (-5%)
合計	8,003	8,674	▼ -671 (-7.7%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

2月23日から2月29日までの原油コストは原油価格の値上がり、為替レートの円高がほぼ相殺し、原油コストは横ばいだったものと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン84~86円台、軽油32円台、灯油35~36円台だった。海上スポット価格は、ガソリン86~89円台、軽油33~34円台、灯油37~42円台である。また、先物価格はガソリン88~90円台、軽油35~37円台、灯油31~32円台だった。原油コストの変動が小幅だったため、製品市況も全般的に小幅な変動にとどまったが、一部でやや値上がりした。一方で、灯油の海上物は値を崩した。

EMGマーケティングは3日、5日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、ガソリン、軽油は1.0円、重油は0.5円それぞれ引き上げ、灯油を据え置き旨通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、原油コストの変動に対応し、小幅な値動きだった。週間のガソリン販売量は、3週振りに100万klを上回る水準だった。

3月第1週(3月3日~3月9日)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(2月23日~2月29日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.6円、灯油は1.2円の値上がり、軽油は0.1円の値下がり、東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.5円の値上がり、灯油は0.5円、軽油は0.2円の値下がりだった。また先物価格は、ガソリンが3.3円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は0.9円の値下がりだった。原油価格は小幅な値動きだったことから、スポット製品価格も全般的に小幅な値動きだったが、海外原油市況の値上がりを受け、先物から一部に値上がり傾向が出始めている。

3月第1週の大手元売の卸価格は、横ばいから1.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (2/23 ~ 2/29)	前週 (2/16 ~ 2/22)	前週比
スポット価格	レギュラー	31.5	30.9	▲ 0.6
	灯油	36.1	34.9	▲ 1.2
	軽油	32.1	32.2	▼ -0.1
(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値][平均]		今週 (2/23 ~ 2/29)	前週 (2/16 ~ 2/22)	前週比
先物価格	レギュラー	35.8	32.5	▲ 3.3
	灯油	32.3	32.3	▶ 0.0
	軽油	36.5	37.4	▼ -0.9

※上記価格は税抜き価格

参考値 (2/23~2/29実績値)		(単位: 円/ℓ)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.6	▲ 3.3	▲ 2.0
灯油	▲ 1.2	▶ 0.0	▲ 0.6
軽油	▼ -0.1	▼ -0.9	▼ -0.5
A重油	▼ -0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

2月29日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円値下がりの112.5円、軽油も0.5円値下がりの97.7円、灯油は0.1円値下がりの61.3円だった。ガソリン、軽油、灯油とも2週連続の値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは3道県、横ばいは3県、値下がり41都府県だった。沖縄県を除く都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県(前週比0.7円安)の107.2円で、高知県(同0.1円安)が107.4円で続いている。最高値は鹿児島県(同0.6円安)の121.8円だった。都道府県別で最も値上がりしたのは岩手県(同0.2円高)で112.4円、

最も値下がりしたのは岡山県(同1.8円安)で109.5円だった。

原油コストはほぼ横ばい、製品スポット市況や卸価格も横ばいから小幅な値上がりだった。次週の小売価格は、先週からの卸価格の値上がりの影響を受け小幅な値上がりが予想される

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)			直近高値	
		今週 (2/29)	前週 (2/22)	前週比		
小売価格	レギュラー	112.5	113.0	▼ -0.5	08/8/4	185.1
	灯油	61.3	61.4	▼ -0.1	08/8/11	132.1
	軽油	97.7	98.2	▼ -0.5	08/8/4	167.4

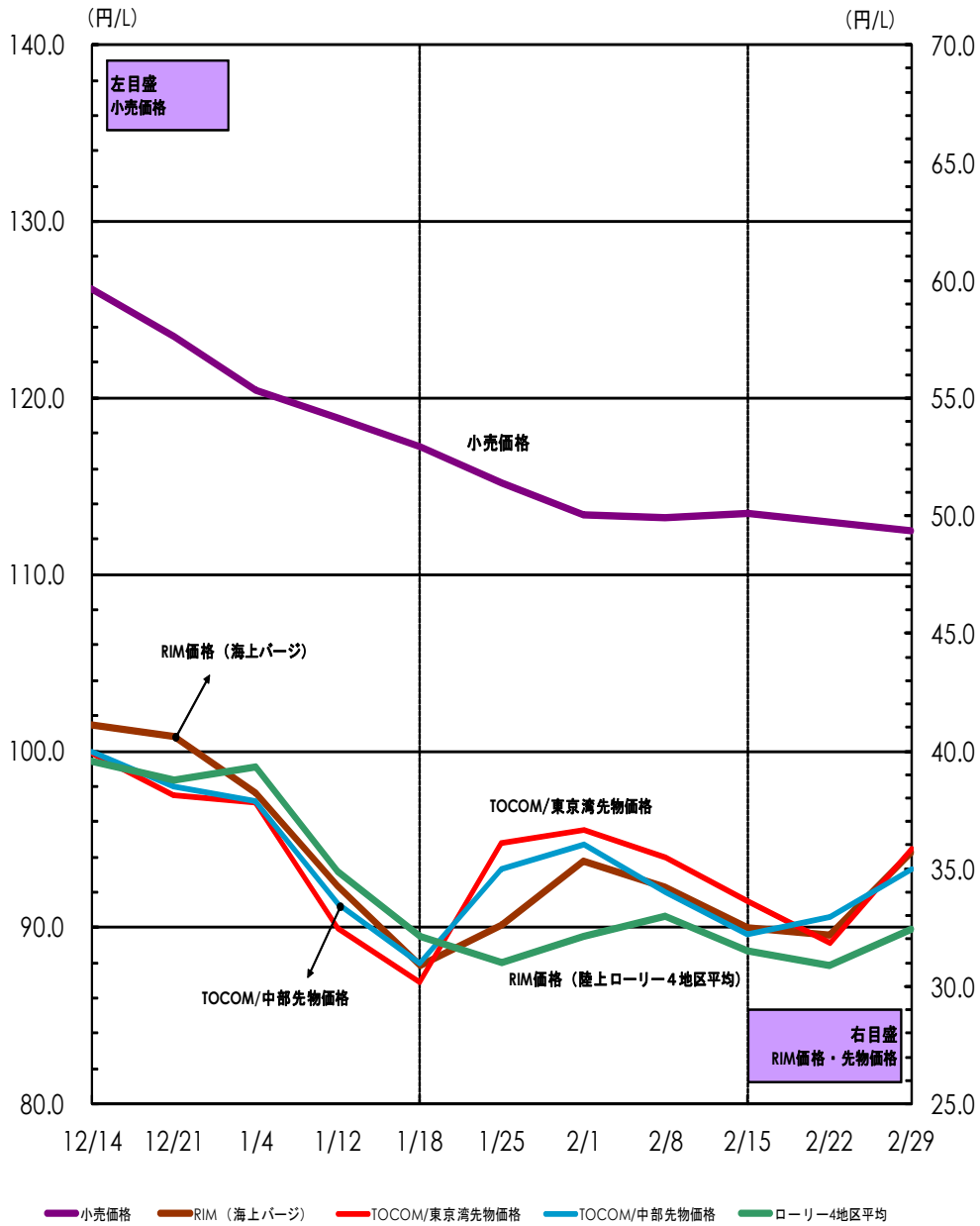
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2015/12/14 ~ 2016/2/29)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2015第46号)の公表は、3/11(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年4月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。